

海水資源・環境シンポジウム 2014

－資源開発に伴って発生する塩水による環境破壊の現状と今後取り組むべき課題－

日本海水学会 海水資源・環境研究会
代表 尾上 薫

近年、世界各地において海水淡水化プロセスが建設され、淡水を得た後の濃縮海水を海洋に排出してきた。この結果、閉鎖海域では海水の塩分濃度が上昇して生態系に影響が出るなどの問題が生じている。また、石油・天然ガスなどの化石燃料の需要が増大しているため、各地において新たに採掘が行われている。こうした化石燃料の採掘では種々の組成の塩水が随伴するため、この随伴水の処理が問題になっている。

本シンポジウムでは淡水化プロセスから排出される濃縮海水の処理について、その必要性や展望を紹介するとともに、NEDO を中心に実施した有価資源回収技術の検討結果と、実際に実験的にプロセスの検証を行った結果についても述べる。また、これまで行われてきた石油・天然ガス生産における随伴水処理技術や今後の展開についても紹介する。

本シンポジウムでは公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所の見学会も予定しており、最後の講演として研究所紹介を兼ねて、これまで実施してきた資源回収・環境改善技術について紹介して頂く。

主 催 : 日本海水学会 海水資源・環境研究会

協 賛 : 公益社団法人 化学工学会、一般財団法人 造水促進センター、公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団、日本イオン交換学会、日本海水学会 若手会、日本脱塩協会、一般社団法人 日本粉体工業技術協会 晶析分科会、分離技術会

開 催 日 : 2014 年 11 月 7 日(金) 13:00~16:00

会 場 : 公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所 講習室

講 演 : 以下の 4 つの講演を予定しております

講演 1	世界における淡水化プロセスの将来展望と課題	三菱重工業株式会社 技監・主幹技師 岩橋 英夫
講演 2	淡水化プロセスから排出される濃縮海水からの有価資源回収技術の検討および提案	公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所 主任研究員 淵脇 哲司
講演 3	石油・天然ガス生産における随伴水処理技術の現状と今後の展開	独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 調査役 川村 和幸
講演 4	資源回収・環境改善技術に挑戦する海水総合研究所(研究所紹介)	公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所 所長 長谷川 正巳

施設見学会 : 16:00~17:00 にて、公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所の施設見学会を実施します

交 流 会 : 施設見学会終了後、交流会を開催いたします(17:00~18:30 を予定)

参 加 費 : 一般会員 3,000 円、学生会員 1,000 円、非会員 5,000 円 (施設見学会・交流会参加費を含みます)
協賛団体の会員は上記会費料金にて承ります

定 員 : 70 名

申 込 先 : 〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂 4-13-20
公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所
(担当: 鴨志田)

Tel : 0465-47-3161 Fax : 0465-48-6242

E-mail : shigen@swsj.org

ア ク セ ス : JR 小田原駅より JR 国府津駅行きバス乗車後、酒匂小学校前で下車

または、JR 国府津駅より JR 小田原駅行きバス乗車後、酒匂小学校前で下車

